

した。

また医学史の面から、宗田一日本医史学会常任理事は「西洋医学の受容」と題し、十六世紀後半から受け容れた西洋医学が、実用的、技術的な面であり、西洋の人文主義的思想の受容はほとんどできなかったと、日本での西洋科学受容の問題点を指摘した。

大阪会場

一日おいて二十一日から三日間、大阪ロイヤルホテルで講演とシンポジウムが行われた。二十一日は医家向けに、ロイエンダイク教授の「日蘭の医学の歴史」、藤野恒三郎大阪大学名誉教授の「医学知識の輸入・同化・発展」と題する二つの講演と、シンポジウム「代用臓器」があった。

ロイエンダイク教授は、オランダにおける医学の発展を概観し、ヨーロッパ医学史の中でオランダ医学を位置づけ、藤野教授は、オランダを通して受け容れた西洋医学が日本でどのように発展したかを述べた。

三日目の二十二日も医家向けとし、二つのシンポジウム「医療の未来」「分子遺伝学と癌」が行われ、最終日の二十三日は公開フォーラムとして、作家吉村昭氏の講演「ペリー来航とオランダ」、ライデン大学ミュルダー J.D. Mulder 教授の講演「健康人の老化」、シンポジウム「すこやかに生きる」があった。

吉村昭氏は、国交を結ぶことを唯一の目的として来航したペリー艦隊の出現は、日本だけでなくオランダにとっても大きな衝撃であったことを史実をもとに話した。

研究者向けフォーラム

なお、第一日目と第二日目の間、四月二十日、東京の竹橋会館

で科学史・医学史・洋学史等の研究者向けのパネルディスカッションが開かれた。まず日本側から矢部一郎立正大学教授が、江戸の本草学者がリンネ分類など西洋植物学などを導入し、日本に本格的な植物学が生まれていく経緯を話し、ついで蒲原宏日本医史学会常任理事が、日本に影響を与えたオランダの整形外科医の事蹟を紹介した。

その後、オランダ側から、ロイエンダイク、ブーカーズ、スネルダーの三氏から第一日目の講演の補足があり、昼の懇親会の後に会場からの活発な発言を混えた討論が行われた。

(蔵方 宏昌)

日本医史学会北陸支部

第一回北陸医史学同好会総会例会

日時 平成元年七月二十三日(日) 午前一〇時から

場所 勅東洋医学臨床研究所 会議室

金沢市南新保町ル五三 電話〇七六二一三七―八二〇〇

会費 二、〇〇〇円(昼食代含む)

プログラム

開会……………石川県幹事

総会

一 阿波加脩造とその系譜……………寺畑 喜朔(金沢市)

二 明治・大正期における石川県金澤病院精神科の看護記録に

ついで……………萩野 妙子(金沢市)

三 加賀藩笠舞村撫育所と明治初年の小野慈善院

……………加藤 豊明(金沢市)

四 澤庵禅師の神農観について……………岩治 勇一(大野市)

五 (資料紹介)

金沢横安江町近八郎右衛門の出版物

虎列刺合戦絵入くとき(明治十二年)――

……………正橋 剛二(富山市)

松田 健史(富山市)

六 お雇い医師スロイスの帰路――金沢から神戸まで――

……………正橋 剛二(富山市)

篠原 治道(富山市)

七 富山県の名水の医史学的研究……………前山 文子(金沢市)

八 『徒然草』の中の医学……………白崎昭一郎(福井市)

九 『医心方』と『鍼術秘要』……………多留 淳文(金沢市)

一〇 加賀藩医岡嶋家の資料について(第一報)

――先祖由緒并一類附帳と御判物――

……………正橋 剛二(富山市)

松田 健史(富山市)

多留 淳文(金沢市)

二 旧日本軍における看護……………長門谷洋治(大阪府)

三 明治初期に來沢したドクトル・ホイットニー・N・ウィリス

について……………加藤 豊明(金沢市)

特別講演

戦後の日本における臨床検査の発達……寺畑 喜朔(金沢医科大学)

閉 会
事務局 千九一〇 福井市大願寺三ノ四ノ一〇

福井県医師会館内

電話〇七七六―二四一〇四〇八

会 長 加藤 豊明

日本医史学会関西支部だより

『医譚』原稿募集

『医譚』五八号の原稿を募集します。投稿規定は以下の通りで、前回同様、ご投稿者にはいろいろとご負担をおかけしますが、事情ご賢察の上、ふるってご投稿賜りますようお願いいたします。

原稿形式：縦書き、四〇〇字詰、二〇枚以内を原則とします。著者名にふりがなを付し文末に所属または住所地を入れ、題名には英文を付して下さい。

原著以外に資料紹介、短報、書評などをお願いします。

著者負担：(一) 原稿用紙二〇枚を超過したさいはその実費

(二) 図表、写真版の実費

(三) 別刷・三〇部単位(希望部数を原稿第一頁に朱書して下さい)

校 正……初校のみを著者にて行う。字句訂正のみをお願いしません。

原稿締切……平成二年一月末日